



# **S3**セットアップウィザードを使用する StorageGRID software

NetApp  
December 03, 2025

# 目次

S3セットアップウィザードを使用する	1
S3 セットアップウィザードの使用: 考慮事項と要件	1
S3 セットアップウィザードを使用する場合	1
ウィザードを使用する前に	1
S3 セットアップウィザードにアクセスして完了する	2
ウィザードにアクセスする	2
ステップ 1/6: HA グループを構成する	3
ステップ 2/6: ロードバランサーのエンドポイントを構成する	5
ステップ3/6: テナントとバケットを作成する	8
ステップ4/6: データのダウンロード	9
ステップ 5/6: S3 の ILM ルールと ILM ポリシーを確認する	10
ステップ6/6: レビューの概要	10

# S3 セットアップウィザードを使用する

## S3 セットアップウィザードの使用: 考慮事項と要件

S3 セットアップウィザードを使用して、StorageGRID をS3 アプリケーションのオブジェクトストレージシステムとして設定できます。

### S3 セットアップウィザードを使用する場合

S3 セットアップウィザードは、S3 アプリケーションで使用するためにStorageGRIDを構成する各手順をガイドします。ウィザードを完了する過程で、S3 アプリケーションに値を入力するために使用できるファイルをダウンロードします。ウィザードを使用すると、システムをより迅速に構成し、設定がStorageGRID のベストプラクティスに準拠していることを確認できます。

もしあなたが"[ルートアクセス権限](#)"StorageGRID Grid Manager の使用を開始するときに S3 セットアップウィザードを完了することも、後でいつでもウィザードにアクセスして完了することもできます。要件に応じて、必要な項目の一部またはすべてを手動で設定し、ウィザードを使用して S3 アプリケーションに必要な値を組み立てることもできます。

### ウィザードを使用する前に

ウィザードを使用する前に、これらの前提条件が満たされていることを確認してください。

#### IPアドレスを取得し、VLANインターフェースを設定する

高可用性 (HA) グループを構成する場合は、S3 アプリケーションが接続するノードと、使用されるStorageGRIDネットワークがわかります。また、サブネット CIDR、ゲートウェイ IP アドレス、仮想 IP (VIP) アドレスに入力する値もわかっています。

仮想 LAN を使用して S3 アプリケーションからのトラフィックを分離する予定の場合は、VLAN インターフェイスはすでに構成されています。見る"[VLANインターフェースを構成する](#)"。

#### ID連携とSSOを構成する

StorageGRIDシステムで ID フェデレーションまたはシングルサインオン (SSO) を使用する予定の場合は、これらの機能が有効になっています。また、S3 アプリケーションが使用するテナント アカウントのルートアクセス権を持つフェデレーショングループも把握しています。見る"[アイデンティティフェデレーションを使用する](#)"そして"[シングルサインオンを構成する](#)"。

#### ドメイン名の取得と設定

StorageGRIDに使用する完全修飾ドメイン名 (FQDN) がわかっていること。ドメイン ネーム サーバー (DNS) エントリは、この FQDN を、ウィザードを使用して作成する HA グループの仮想 IP (VIP) アドレスにマッピングします。

S3仮想ホスト形式のリクエストを使用する予定の場合は、"[設定されたS3エンドポイントドメイン名](#)"。仮想ホスト形式のリクエストを使用することをお勧めします。

#### ロードバランサとセキュリティ証明書の要件を確認する

StorageGRIDロード バランサを使用する予定の場合は、ロード バランシングに関する一般的な考慮事項を確認しておきます。アップロードする証明書、または証明書を生成するために必要な値があります。

外部 (サードパーティ) ロード バランサー エンドポイントを使用する予定の場合は、そのロード バランサーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)、ポート、および証明書が必要です。

#### グリッドフェデレーション接続を構成する

S3 テナントがグリッド フェデレーション接続を使用してアカウント データを複製し、バケット オブジェクトを別のグリッドに複製できるようにする場合は、ウィザードを開始する前に次の点を確認してください。

- あなたが持っている"[グリッドフェデレーション接続を構成しました](#)"。
- 接続のステータスは\*接続済み\*です。
- ルートアクセス権限があります。

## S3 セットアップウィザードにアクセスして完了する

S3 セットアップ ウィザードを使用して、StorageGRID をS3 アプリケーションで使用するように構成できます。セットアップ ウィザードは、アプリケーションがStorageGRIDバケットにアクセスしてオブジェクトを保存するために必要な値を提供します。

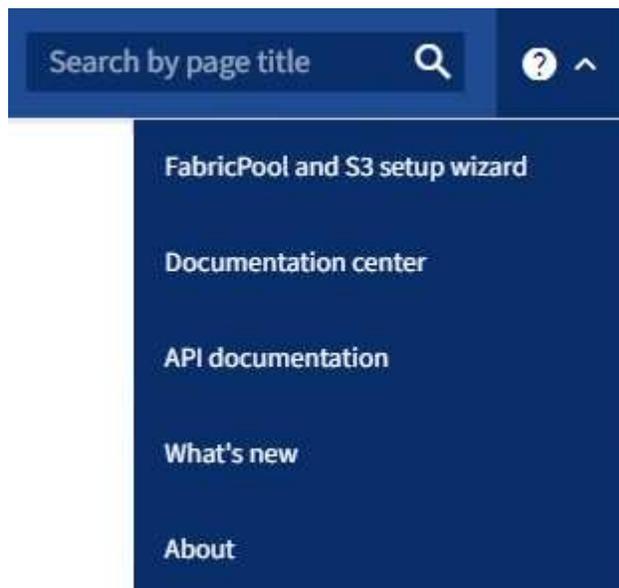
開始する前に

- あなたは"[ルートアクセス権限](#)"。
- あなたは、"[考慮事項と要件](#)"ウィザードを使用するためのものです。

#### ウィザードにアクセスする

手順

1. グリッドマネージャーにSign inには、"[サポートされているウェブブラウザ](#)"。
2. ダッシュボードに \* FabricPoolおよび S3 セットアップ ウィザード\* バナーが表示された場合は、バナー内のリンクを選択します。バナーが表示されなくなった場合は、グリッド マネージャーのヘッダー バーからヘルプ アイコンを選択し、\* FabricPoolおよび S3 セットアップ ウィザード\* を選択します。



3. FabricPoolおよび S3 セットアップ ウィザード ページの S3 アプリケーション セクションで、[今すぐ構成] を選択します。

## ステップ 1/6: HA グループを構成する

HA グループは、それぞれにStorageGRID Load Balancer サービスが含まれるノードの集合です。HA グループには、ゲートウェイ ノード、管理ノード、またはその両方を含めることができます。

HA グループを使用すると、S3 データ接続を利用可能な状態に保つことができます。HA グループ内のアクティブ インターフェイスに障害が発生した場合、バックアップ インターフェイスが S3 操作にほとんど影響を与えずにワークロードを管理できます。

このタスクの詳細については、"[高可用性グループの管理](#)"。

### 手順

1. 外部ロードバランサーを使用する予定の場合は、HA グループを作成する必要はありません。\*この手順をスキップ\*を選択して、[ステップ 2/6: ロードバランサーのエンドポイントを構成する](#)。
2. StorageGRIDロード バランサを使用するには、新しい HA グループを作成するか、既存の HA グループを使用することができます。

## HAグループを作成する

- a. 新しい HA グループを作成するには、\*HA グループの作成\*を選択します。
- b. \*詳細を入力\*手順では、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
HAグループ名	この HA グループの一意の表示名。
説明 (オプション)	この HA グループの説明。

- c. \*インターフェースの追加\*手順では、この HA グループで使用するノード インターフェースを選択します。

列ヘッダーを使用して行を並べ替えるか、検索語を入力してインターフェースをより速く見つけます。

1つ以上のノードを選択できますが、各ノードに対して選択できるインターフェースは1つだけです。

- d. \*インターフェースの優先順位付け\*手順では、この HA グループのプライマリ インターフェースとバックアップ インターフェースを決定します。

行をドラッグして、「優先順位」列の値を変更します。

リストの最初のインターフェースはプライマリ インターフェースです。障害が発生しない限り、プライマリ インターフェースはアクティブ インターフェースになります。

HA グループに複数のインターフェースが含まれており、アクティブ インターフェースに障害が発生した場合、仮想 IP (VIP) アドレスは優先順位の最初のバックアップ インターフェースに移動します。そのインターフェースに障害が発生した場合、VIP アドレスは次のバックアップ インターフェースに移動し、これが繰り返されます。障害が解決されると、VIP アドレスは利用可能な最も優先度の高いインターフェースに戻ります。

- e. IP アドレスを入力 の手順では、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
サブネットCIDR	CIDR 表記の VIP サブネットのアドレス (IPv4 アドレスの後にスラッシュとサブネットの長さ (0 ~ 32) が続きます)。  ネットワーク アドレスにはホスト ビットを設定しないでください。例：192.16.0.0/22。
ゲートウェイIPアドレス (オプション)	StorageGRID へのアクセスに使用される S3 IP アドレスがStorageGRID VIP アドレスと同じサブネット上にない場合は、StorageGRID VIP ローカル ゲートウェイ IP アドレスを入力します。ローカル ゲートウェイ IP アドレスはVIP サブネット内にある必要があります。

フィールド	説明
仮想IPアドレス	<p>HA グループ内のアクティブ インターフェイスに、少なくとも 1 個、最大 10 個の VIP アドレスを入力します。すべての VIP アドレスは VIP サブネット内にある必要があります。</p> <p>少なくとも 1 つのアドレスは IPv4 である必要があります。必要に応じて、追加の IPv4 および IPv6 アドレスを指定できます。</p>

f. **HA** グループの作成 を選択し、完了 を選択して S3 セットアップ ウィザードに戻ります。

g. \*続行\*を選択して、ロードバランサーのステップに進みます。

既存の**HA**グループを使用する

a. 既存の HA グループを使用するには、「**HA** グループの選択」から HA グループ名を選択します。

b. \*続行\*を選択して、ロードバランサーのステップに進みます。

## ステップ 2/6: ロードバランサーのエンドポイントを構成する

StorageGRID はロード バランサを使用してクライアント アプリケーションからのワークロードを管理します。負荷分散により、複数のストレージ ノード間の速度と接続容量が最大化されます。

すべてのゲートウェイおよび管理ノードに存在するStorageGRIDロード バランサ サービスを使用することも、外部 (サードパーティ) ロード バランサに接続することもできます。StorageGRIDロード バランサの使用をお勧めします。

このタスクの詳細については、"[負荷分散に関する考慮事項](#)"。

StorageGRIDロード バランサ サービスを使用するには、\* StorageGRIDロード バランサ\* タブを選択し、使用するロード バランサ エンドポイントを作成または選択します。外部ロード バランサを使用するには、[外部ロード バランサ] タブを選択し、すでに構成したシステムの詳細を入力します。

## エンドポイントを作成する

### 手順

1. ロード バランサー エンドポイントを作成するには、[エンドポイントの作成] を選択します。
2. エンドポイントの詳細を入力 ステップで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
Name	エンドポイントの説明的な名前。
ポート	負荷分散に使用するStorageGRIDポート。このフィールドは、最初に作成するエンドポイントに対してデフォルトで 10433 に設定されますが、未使用の外部ポートを入力できます。80 または 443 を入力すると、これらのポートは管理ノードで予約されているため、エンドポイントはゲートウェイ ノードでのみ構成されます。  注意: 他のグリッド サービスで使用されるポートは許可されません。参照" <a href="#">ネットワークポートリファレンス</a> "。
クライアントタイプ	<b>S3</b> である必要があります。
ネットワークプロトコル	「HTTPS」を選択します。  注: TLS 暗号化なしでのStorageGRIDとの通信はサポートされていますが、推奨されません。

3. バインディング モードの選択 ステップで、バインディング モードを指定します。バインディング モードは、任意の IP アドレスまたは特定の IP アドレスとネットワーク インターフェイスを使用してエンドポイントにアクセスする方法を制御します。

モード	説明
グローバル (デフォルト)	クライアントは、任意のゲートウェイ ノードまたは管理ノードの IP アドレス、任意のネットワーク上の任意の HA グループの仮想 IP (VIP) アドレス、または対応する FQDN を使用してエンドポイントにアクセスできます。  このエンドポイントのアクセシビリティを制限する必要がない限り、*グローバル*設定 (デフォルト) を使用します。
HAグループの仮想IP	クライアントはこのエンドポイントにアクセスするために、HA グループの仮想 IP アドレス (または対応する FQDN) を使用する必要があります。  このバインディング モードのエンドポイントは、エンドポイントに選択した HA グループが重複していない限り、すべて同じポート番号を使用できます。

モード	説明
ノードインターフェース	クライアントは、このエンドポイントにアクセスするために、選択したノードインターフェースの IP アドレス (または対応する FQDN) を使用する必要があります。
ノードタイプ	選択したノードのタイプに基づいて、クライアントは、このエンドポイントにアクセスするために、任意の管理ノードの IP アドレス (または対応する FQDN) または任意のゲートウェイノードの IP アドレス (または対応する FQDN) を使用する必要があります。

4. テナント アクセス ステップでは、次のいずれかを選択します。

フィールド	説明
すべてのテナントを許可する (デフォルト)	すべてのテナント アカウントは、このエンドポイントを使用してバケットにアクセスできます。
選択したテナントを許可する	選択されたテナント アカウントのみがこのエンドポイントを使用してバケットにアクセスできます。
選択したテナントをブロック	選択されたテナント アカウントは、このエンドポイントを使用してバケットにアクセスできません。他のすべてのテナントはこのエンドポイントを使用できます。

5. \*証明書\*の添付\*ステップでは、次のいずれかを選択します。

フィールド	説明
証明書をアップロードする (推奨)	このオプションを使用して、CA 署名付きサーバー証明書、証明書の秘密キー、およびオプションの CA バンドルをアップロードします。
証明書を生成する	このオプションを使用して、自己署名証明書を生成します。見る" <a href="#">ロードバランサのエンドポイントを構成する</a> "入力内容の詳細については、こちらをご覧ください。
StorageGRID S3証明書を使用する	このオプションは、StorageGRIDグローバル証明書のカスタムバージョンをすでにアップロードまたは生成している場合にのみ使用してください。見る" <a href="#">S3 API証明書を設定する</a> "詳細については。

6. \*完了\*を選択して、S3 セットアップ ウィザードに戻ります。

7. \*続行\*を選択して、テナントとバケットのステップに進みます。



エンドポイント証明書の変更がすべてのノードに適用されるまでに最大 15 分かかる場合があります。

既存のロードバランサエンドポイントを使用する

手順

1. 既存のエンドポイントを使用するには、「ロードバランサー エンドポイントの選択」からその名前を選択します。
2. \*続行\*を選択して、テナントとバケットのステップに進みます。

外部ロードバランサを使用する

手順

1. 外部ロードバランサーを使用するには、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
FQDN	外部ロード バランサーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)。
ポート	S3 アプリケーションが外部ロードバランサーに接続するために使用するポート番号。
Certificate	外部ロードバランサーのサーバー証明書をコピーして、このフィールドに貼り付けます。

2. \*続行\*を選択して、テナントとバケットのステップに進みます。

## ステップ3/6: テナントとバケットを作成する

テナントは、S3 アプリケーションを使用してStorageGRIDにオブジェクトを保存および取得できるエンティティです。各テナントには、独自のユーザー、アクセス キー、バケット、オブジェクト、および特定の機能セットがあります。

バケットは、テナントのオブジェクトとオブジェクト メタデータを保存するために使用されるコンテナです。テナントには多くのバケットが存在する可能性があります。ウィザードを使用すると、テナントとバケットを最も迅速かつ簡単に作成できます。後でバケットを追加したりオプションを設定したりする必要がある場合は、テナント マネージャーを使用できます。

このタスクの詳細については、"[テナントアカウントを作成する](#)"そして"[S3バケットを作成する](#)"。

手順

1. テナント アカウントの名前を入力します。

テナント名は一意である必要はありません。テナント アカウントが作成されると、一意の数値アカウント ID が割り当てられます。

2. StorageGRIDシステムが使用するかどうかに基づいて、テナントアカウントのルートアクセスを定義します。"[アイデンティティフェデレーション](#)"、"[シングルサインオン \(SSO\)](#)"、またはその両方。

オプション	これをする
アイデンティティ連携が有効になっていない場合	ローカル ルート ユーザーとしてテナントにサインインするときに使用するパスワードを指定します。
アイデンティティ連携が有効になっている場合	a. 既存のフェデレーショングループを選択して" <b>ルートアクセス権限</b> "テナントのために。 b. 必要に応じて、ローカル ルート ユーザーとしてテナントにサインインするときに使用するパスワードを指定します。
ID連携とシングルサインオン (SSO) の両方が有効になっている場合	既存のフェデレーショングループを選択して" <b>ルートアクセス権限</b> "テナントのために。ローカル ユーザーはサインインできません。

- ウィザードでルート ユーザーのアクセス キー ID とシークレット アクセス キーを作成する場合は、[ルート ユーザーの S3 アクセス キーを自動的に作成する] を選択します。

テナントの唯一のユーザーがルート ユーザーである場合は、このオプションを選択します。他のユーザーがこのテナントを使用する場合、"**テナントマネージャーを使用する**"キーと権限を設定します。

- 今すぐこのテナントのバケットを作成する場合は、「このテナントのバケットを作成」を選択します。



グリッドに対して S3 オブジェクト ロックが有効になっている場合、この手順で作成されたバケットでは S3 オブジェクト ロックは有効になりません。この S3 アプリケーションに S3 オブジェクトロック バケットを使用する必要がある場合は、今すぐバケットの作成を選択しないでください。代わりに、テナントマネージャーを使用して"**バケットを作成する**"後で。

- S3 アプリケーションが使用するバケットの名前を入力します。例： s3-bucket。

バケットを作成した後は、バケット名を変更することはできません。

- このバケットの\*リージョン\*を選択します。

デフォルトの地域を使用する(us-east-1) 将来的に ILM を使用してバケットのリージョンに基づいてオブジェクトをフィルタリングする予定がない限り、このポリシーは適用されません。

- \*作成して続行\*を選択します。

## ステップ4/6: データのダウンロード

データのダウンロード手順では、1 つまたは 2 つのファイルをダウンロードして、構成した内容の詳細を保存できます。

### 手順

- ルートユーザーの **S3** アクセス キーを自動的に作成する を選択した場合は、次のいずれかまたは両方を実行します。
  - \*アクセスキーをダウンロード\*を選択してダウンロードします `csv` テナント アカウント名、アクセス キー ID、シークレット アクセス キーを含むファイル。

- 。コピーアイコン (  ) をクリックして、アクセス キー ID とシークレット アクセス キーをクリップボードにコピーします。
- 2. \*設定値をダウンロード\*を選択してダウンロードします。`.txt`ロードバランサのエンドポイント、テナント、バケット、およびルートユーザーの設定を含むファイル。
- 3. この情報を安全な場所に保存してください。



両方のアクセス キーをコピーするまでこのページを閉じないでください。このページを閉じると、キーは使用できなくなります。この情報はStorageGRIDシステムからデータを取得するために使用される可能性があるため、必ず安全な場所に保存してください。

- 4. プロンプトが表示されたら、チェックボックスを選択して、キーをダウンロードまたはコピーしたことを確認します。
- 5. \*続行\*を選択して、ILM ルールとポリシーのステップに進みます。

## ステップ 5/6: S3 の ILM ルールと ILM ポリシーを確認する

情報ライフサイクル管理 (ILM) ルールは、StorageGRIDシステム内のすべてのオブジェクトの配置、期間、および取り込み動作を制御します。StorageGRIDに含まれる ILM ポリシーは、すべてのオブジェクトの複製コピーを2つ作成します。このポリシーは、少なくとも1つの新しいポリシーをアクティブ化するまで有効です。

### 手順

- 1. ページに記載されている情報を確認します。
- 2. 新しいテナントまたはバケットに属するオブジェクトに特定の指示を追加する場合は、新しいルールと新しいポリシーを作成します。見る["ILMルールを作成する"](#)そして["ILMポリシーを使用する"](#)。
- 3. \*これらの手順を確認し、実行する必要があることを理解しました\*を選択します。
- 4. 次に何をすべきかを理解していることを示すために、チェックボックスを選択します。
- 5. \*続行\*を選択して\*概要\*に進みます。

## ステップ6/6: レビューの概要

### 手順

- 1. 概要を確認します。
- 2. 次の手順では、S3 クライアントに接続する前に必要になる可能性のある追加の構成について説明しているので、詳細をメモしておいてください。たとえば、「\* root としてSign in\*」を選択すると、テナントマネージャに移動し、テナント ユーザーを追加したり、追加のバケットを作成したり、バケット設定を更新したりできます。
- 3. \*完了\*を選択します。
- 4. StorageGRIDからダウンロードしたファイルまたは手動で取得した値を使用してアプリケーションを構成します。

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。